委託事業実施内容報告書
平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

受託団体名　一般社団法人グローバル人財サポート浜松

1.　事業名称

多様な人財を活用した地域社会の構築にむけた多文化コンシェルジュ育成事業

2.　事業の目的

浜松市をはじめとする地域社会における、これからの多文化共生社会の構築には、高い日本語能力を有する外国人が率先して自らの文化や民族性を日本人に伝え、相互理解を深める場が必要である。そこで外国人の多文化パワーを地域に活かすべく、高い日本語コミュニケーション能力をもつ外国人多文化コンシェルジュを育成し、地域の多文化共生社会づくりに寄与する人財としていく。

3.　事業内容の概要

多文化コンシェルジュに期待される役割は、①同国出身者に対して日本で生活するうえで必要な知識や能力の習得を支援する、②同国出身の観光客に対して日本や自分の居住地の素晴らしい魅力を伝えることができる、③日本人（企業や行政等の機関を含む）に対して母国の文化や習慣、価値観などを伝えることができる、④日本と母国との懸け橋となる―などといったものがあげられる。平成25年度事業において多文化コンシェルジュの育成を実施したところ、実際に地域の公民館や中学校のキャリアデザイン講座等で講師を務めたり、同国出身者向けの情報誌を作成しようとしているなどの社会参画の糸口をつけられた者もいるが、自発的な社会参画に必要な日本語指導の完成度や事業運営基盤の体制整備はいまだ不十分さが否めないでいる。そこで、26年度では、①コンシェルジュとしての役割を十分に担えるような企画立案やプレゼンテーションに必要な日本語を習得するための講座を2ステップ構成で開講（取組1．2）、②受講者が①で学んだことを活かし講座を企画し運営する機会の提供（取組3）、③コンシェルジュが活躍できるよう多様な機関による体制整備と事業ノウハウのまとめ（取組3）、④他地域に汎用できるよう成果の情報発信（取組4）、の4点を行う。

4.　運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年4月28日（月）15:00～16:30	1．5時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子 毛受敏浩 池上重弘 石塚良明 長田治義 堀　永乃	今年度事業の内容について	昨年度の事業報告と成果を再検証 今年度の事業内容と目標
2	平成26年12月10日 10:30～12:00	1．5時間	グローバル人財サポート浜松研修室	池上重弘 石塚良明 西原鈴子 堀　永乃	シンポジウムの内容と事業評価と成果について	取り組み1と2の進捗状況 取り組み3の多文化コンシェルジュの出口支援 シンポジウムの内容 事業の成果物の具体的な内容
3	平成27年3月9日 10:30～12:00	1．5時間	グローバル人財サポート浜松研修室	池上重弘 石塚良明 長田治義 堀　永乃	事業評価と今後の課題について	全取組の事業報告とシンポジウムの開催報告から、本事業の評価を協議。また事業の課題から来年度に向けた目標について意見交換を行う。

5.　取組についての報告

○取組1：多文化コンシェルジュのための日本語講座ベーシックコース

（1）　体制整備に向けた取組の目標

この講座では、多様な人材や社会を構成する多様な機関に対して日本語教育の重要性や社会的意義に関する意識啓発を目標とする。また2年にわたる講座の実施により内容を精査し制作された教材などから、「生活者としての外国人」に対するカリキュラム案に、高度人材の育成に向けたカリキュラムを追記できるようカリキュラム案を提示することを目標とする。

（2）　取組内容

外国人多文化コンシェルジュの育成を行う。このコンシェルジュとは、情報の羅針盤のような役割だけでなく、日本人には外国人自身の民族性や文化、価値観などをわかりやすく伝え、同郷の後輩外国人には自身の経験から日本社会における戦略的な生き方や日本人固有の価値観などをわかりやすく伝える機会の提供として講座やイベント等を企画し、公共施設等で運営することのできる人材を指す。そのため、公共機関やソーシャルビジネスネットワークを対象に、事業の企画運営、対外折衝、プレゼンテーションを行う上で必要となる日本語能力を習得するための講座を、多様な機関により開催する。また、既に多文化コンシェルジュのような活動をしている外国人にはリカレント研修としていく。

（3）　対象者　　日本語能力が中級レベル以上で多文化コンシェルジュとして地域に対し相互文化をつなぐことに興味のある外国人市民

（4）　参加者の総数　　24人

出身・国籍別内訳

中国	1人	インドネシア	1人
韓国	人	ポーランド	1人
ブラジル	5人	ペルー	1人
ベトナム	1人	フィリピン	11人
モンゴル	1人	日本	2人

（5）　開催時間数（回数）午前・午後コース　48時間　（全24回）※7/11は台風上陸のため休講

（6）　取組の具体的内容

午前コース

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年7月4日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	6人	フィリピン（6人）	自国の文化を紹介しよう	自己紹介と講座のウォーミングアップ、母国の文化紹介ができるようにする。	鈴木淑恵	杉本里美
2	平成26年7月11日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	休講		日本の文化を紹介してみよう	自分が知っている日本文化について紹介することができるようにする。	鈴木淑恵	杉本里美
3	平成26年7月18日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	5人	フィリピン（4人）、ポーランド（1人）	広報　見せ方・魅せ方	宣伝用写真や記録用写真の撮り方について、実践的に学ぶ。	今村哲郎	鈴木淑恵
4	平成26年7月25日 10:00～12:00	2時間	浜松市中央図書館おはなしの部屋	2人	フィリピン（2人）	図書館で読み聞かせを学ぼう	絵本の読み聞かせの手法を学ぶ。	浜松市中央図書館	鈴木淑恵
5	平成26年8月1日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	3人	フィリピン（1人）、ブラジル（1人）、日本（1人）	”おもてなし”のマナー	名刺の渡し方、お茶の出し方・飲み方、おじぎの仕方など、日本人のマナーについて学ぶ。	山下澄乃	鈴木淑恵
6	平成26年8月8日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	2人	フィリピン（1人）、ポーランド（1人）	手紙を書こう	暑中見舞いの書き方を学び、季節のあいさつ、お礼や感謝の気持ちを伝える日本語を学ぶ	鈴木淑恵	杉本里美
7	平成26年9月5日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	6人	フィリピン（3人）、ブラジル（1人）、ポーランド（1人）、日本（1人）	日本人とうまく働く秘訣	日本人とうまく働くために知っておくと得する日本人の労働観と異文化理解。	時　光	鈴木淑恵
8	平成26年9月12日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	2人	フィリピン（2人）	自己PR、魅せるポイント	講演等で人前に出るときに、きれいに見せる立ち方や笑顔の作り方について学ぶ。	山本泰子	鈴木淑恵
9	平成26年9月19日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	2人	フィリピン（1人）、ブラジル（1人）	行政文書の書き方	まつぼっくりカードを使って、会場を予約するときにはどうしたらよいのか、申込用紙の書き方などを学ぶ。	市民協働センター	鈴木淑恵
10	平成26年9月26日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	3人	フィリピン（1人）、ブラジル（1人）、ポーランド（1人）	異文化講座を企画しよう	実際に母国文化や同国出身者に日本の魅力を伝えるためのイベントや講座を企画してみる。	鈴木淑恵	杉本里美
11	平成26年10月3日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	3人	フィリピン（1人）、ブラジル（1人）、ポーランド（1人）	実際にやってみよう①	企画したプレゼンテーションの内容を文字に書き起こして流れを見直し、講座を実施できるようにする。	鈴木淑恵	杉本里美
12	平成26年10月10日 10:00～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	3人	フィリピン（1人）、ブラジル（1人）、ポーランド（1人）	実際にやってみよう①	模擬発表	鈴木淑恵	杉本里美

午後コース

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年7月5日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	5人	中国（1人）, ブラジル（3人）	自国の文化を紹介しよう	自己紹介と講座のウォーミングアップ、母国の文化紹介ができるようにする。	堀　永乃	杉山真之介
2	平成26年7月12日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	6人	ブラジル（3人）、中国（1人）、インドネシア（1人）、ペルー（1人）	日本の文化を紹介してみよう	自分が知っている日本文化について紹介することができるようにする。	堀　永乃	杉山真之介
3	平成26年7月19日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	7人	ブラジル（3人）、インドネシア（1人）、ペルー（1人）	広報　見せ方・魅せ方	宣伝用写真や記録用写真の撮り方について、実践的に学ぶ。	長田治義（市民協働センター）	杉山真之介
4	平成26年7月26日 13:30～15:30	2時間	浜松市中央図書館おはなしの部屋	5人	ブラジル（2人）、インドネシア（1人）、中国（1人）、ペルー（1人）	図書館で読み聞かせを学ぼう	絵本の読み聞かせの手法を学ぶ。	浜松市中央図書館	堀　永乃

5	平成26年8月2日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	5人	ブラジル(2人)、インドネシア(1人)、中国(1人)、ペルー(1人)	”おもてなし”のマナー	名刺の渡し方、お茶の出し方・飲み方、おじぎの仕方など、日本人のマナーについて学ぶ。	山下澄乃	杉山真之介
6	平成26年8月9日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	5人	ブラジル(2人)、インドネシア(1人)、中国(1人)、ペルー(1人)	手紙を書こう	暑中見舞いの書き方を学び、季節のあいさつ、お礼や感謝の気持ちを伝える日本語を学ぶ	増田由美	杉山真之介
7	平成26年9月6日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	6人	ブラジル(2人)、インドネシア(1人)、中国(1人)、ペルー(1人)、日本(1人)	日本人とうまく働く秘訣	日本人とうまく働くために知っておくと得する日本人の労働観と異文化理解。世界の価値観と母国の価値観を見る。	中西エリカ	堀　永乃
8	平成26年9月13日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	5人	ブラジル(2人)、インドネシア(1人)、中国(1人)、ペルー(1人)	自己PR、魅せるポイント	講演等で人前に出るときに、きれいに見せる立ち方や笑顔の作り方について学ぶ。	山本泰子	杉山真之介
9	平成26年9月20日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	5人	ブラジル(2人)、インドネシア(1人)、中国(1人)、ペルー(1人)	行政文書の書き方	まつぼっくりカードを使って、会場を予約するときにはどうしたらよいのか、申込用紙の書き方などを学ぶ。	松下(中部協働センター) 影山(浜松市教育委員会)	堀　永乃
10	平成26年9月27日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	3人	ブラジル(1人)、インドネシア(1人)、ペルー(1人)	異文化講座を企画しよう	実際に母国文化や同国出身者に日本の魅力を伝えるためのイベントや講座を企画してみる。	増田由美	杉山真之介
11	平成26年10月4日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	4人	ブラジル(1人)、インドネシア(1人)、ペルー(1人)、中国(1人)	実際にやってみよう①	企画したプレゼンテーションの内容を文字に書き起こして流れを見直し、講座を実施できるようにする。	増田由美	杉山真之介
12	平成26年10月11日 13:30～15:30	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	4人	ブラジル(2人)、インドネシア(1人)、ペルー(1人)	実際にやってみよう①	模擬発表	堀　永乃	杉山真之介

（7）　参加者の募集方法

ホームページ、SNS、チラシの配架による案内。
外国人コミュニティと昨年度受講者への電話連絡にて公募。

（8）　特徴的な活動風景（2～3回分）

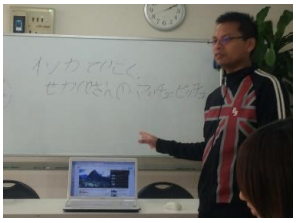
●読み聞かせを学ぼう

浜松市図書館と連携して、多文化コンシェルジュが読み聞かせボランティア活動ができるよう、読み聞かせのテクニックを学び疑似体験した。

●日本人とうまく働く秘訣

外国人からみた日本人の価値観、異文化について、当事者同士が日本語で語り合った。CIR経験者である講師が行政機関のなかで感じた異文化やストラテジーについて実体験を基に話すことによって、多文化コンシェルジュが身に着けておくといいストラテジーを学んだ。

●実際にやってみよう②



受講者が考えたプレゼンを模擬発表した。母国の文化紹介を考えた人は母国の在日大使館から資料を集めたり、思いを伝えるためにパワーポイントを使って画像を見せながらわかりやすく説明するなどの工夫をして発表した。

（9）　取組の目標の達成状況・成果

昨年度の事業に比べて、フィリピン出身者、教会のボランティア、技能実習生など、背景が異なるも、外国人コミュニティのリーダーになり得る多様な人材が受講した。
受講者から、きれいな文字を書くようになりたいというニーズが生まれ、この講座からスピンオフする形で書き方クラスが開催されるようになった。このことは、受講者の自律学習の意欲の表れである。
タレント養成学校の校長や行政職員、読み聞かせボランティア、旅館の女将、元CIRで現在日本で活躍している外国人など、講師には、その道の一線で活躍する専門家を迎えることができた。これは、日本人側に対して多文化共生のための意識啓発につながった。

（10）　改善点について

2コース設置で振替体制が取れたのは良かったが、前期・後期と分けたことで、中だるみがあった。
多文化コンシェルジュになることが目的ではなかった受講者の欠席が目立ってしまった。
コースデザインの際には、ゴールを明示して受講者のモチベーション維持をしていくことが必要である。

○取組2：多文化コンシェルジュのための日本語講座スキルアップコース

（1） 体制整備に向けた取組の目標

外国人住民の社会参画に向けたスキームの確立を目標とする。その評価は、ステップアップコースの講師のヒアリングや取組3の協議会における評価により行う。これによりベーシックコースに取り入れるべき内容が明確となるほか、人材育成のカリキュラム案を提示する参考資料を作成することができる。

（2） 取組内容

外国人多文化コンシェルジュのための日本語講座ベーシックコースの発展版。このコンシェルジュとして、必要となる日本語によるプレゼンテーションの能力向上とニーズを的確に把握したうえでコンシェルジュとして活動できるような心構えを学ぶための講座を開催する。多文化コンシェルジュのような活動をしている外国人や前年度の受講者であり既に多文化コンシェルジュになった者に対してはブラッシュアップ研修とする。

（3） 対象者　　取組1の受講者、既に多文化コンシェルジュとして活躍している人、自身の技術力を高めたい人

（4） 参加者の総数　　15人

出身・国籍別内訳

中国	1人	インドネシア	1人	
韓国	人	タイ	人	ポーランド1人
ブラジル	4人	ペルー	1人	
ベトナム	人	フィリピン	1人	
ネパール	人	日本	6人	

（5） 開催時間数（回数）　12 時間　（全4回）

（6） 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年10月25日 13:30～16:30	3時間	グローバル人財サポート浜松研修室	8人	中国（1人），ブラジル（3人），フィリピン（1人），ペルー（1人），インドネシア（1人），日本（1人）	教案作成	ベーシックコースで考えた企画講座を受けて、具体的に教案を作るうえで必要な流れと表現について学ぶ。	藤田美佳	堀　永乃 原川朋子
2	平成26年11月1日 13:30～16:30	3時間	グローバル人財サポート浜松研修室	6人	ブラジル（2人），フィリピン（1人），インドネシア（1人），日本（2人）	プレゼンテーション①	前回考えた講座の流れからプレゼンテーション上の日本語の表現方法、内容の膨らめ方などを実践で学ぶ。	清　ルミ	堀　永乃 原川朋子
3	平成26年12月6日 13:30～16:32	3時間	グローバル人財サポート浜松研修室	8人	ブラジル（2人），フィリピン（1人），インドネシア（1人），日本（4人）	プレゼンテーション②	プレゼンテーションの様子をビデオに収録し、クラスで見直しをしながら発表時に気を付けるポイントや長所を	西川寛之	堀　永乃 原川朋子
4	平成27年1月24日 13:30～16:33	3時間	ふじのくに西部NPO支援センター	8人	ブラジル（3人），フィリピン（1人），インドネシア（1人），ポーランド（1人），中国（1人），日本（1人）	プレゼンテーション③	取り組み4シンポジウムで行うトークセッションの構成と発表内容、意見交換を行う。	堀　永乃	原川朋子 杉山真之介

（7） 参加者の募集方法

SNS、HP、チラシ（ベーシックコースと同じ）による公募。HICE NEWSへの記事掲載。

（8） 特徴的な活動風景（2～3回分）

発表を共有すると共に、自国文化の背景があるからこそ、伝えるべき内容が何かということと、このままでは日本人に伝えるとかえって誤解を招くかもしれない表現を、発表を通して具体的に学ぶことができた。

ビデオに録画するという新たな手法で振り返り活動をしたことにより、自分自身の見直しをすることができた。また、振り返り活動が互いに褒め合うというワークショップ型授業であったことから、多少自信がなかった受講者も達成感を持って学ぶことができた。

（9） 取組の目標の達成状況・成果

外国人だからこそわかる地域の魅力や偏見をなくしたいという率直な思いなど、日頃外国人住民が抱えている社会に対する思いを本講座を通して、把握することができた。これにより、日本人に対してどのような意識啓発や多文化共生に対する理解を求める事業や仕掛けをしていくべきか明確になった。また、そのことが、取組4でのトークセッションの内容に活かされていくことになり、この取り組みによって全取組がしっかりとつながるきっかけとなった。日本人の大学生の参加もあり、プレゼンテーションは文化だけでなく自分自身にも必要であるということが、ニーズとして明らかにすることができた。

（10） 改善点について

1回目に授業案を2回目に発表をということで準備を進めたが、期間が短すぎて十分なプレゼンができなかったという声が多かった。各回の間隔を一定に取る必要がある。また会場の変更もあり、周知が大変であった。

〇取組3：外国人の多文化パワーによる地域力向上推進プロジェクト

（1） 体制整備に向けた取組の目標

多文化コンシェルジュの活躍の場づくりと地域ニーズの把握、多文化コンシェルジュ育成プログラムの開発を目指す

（2） 取組内容

①外国人多文化コンシェルジュ育成協議会を設置し、その人材育成のスキームについて多様な視点から協議していく。今年度は、高い日本語能力を有し地域社会で様々な活動をしている在住外国人に対しポートフォリオ活動を共に行い、彼らの学習過程や経験から共通する項目から社会参画に至るまでに必要な環境や学習段階を分析する。②取組2の受講者がコンシェルジュとして日本人との相互理解を深めるための講座の開催等を通じて、その機会の提供を行い（中部協働センターでの異文化理解講座）、外国人の社会参画とつなげていく協働の体制を構築する。③多文化コンシェルジュの情報整備を行い、広く地域で活躍できるような出口支援の体制を整備する。④これら一連の育成過程をふまえ、多様な視点から事業評価を行い、多文化コンシェルジュ育成ノウハウをまとめる。

（3） 対象者 ベーシックコース受講者、既に同様の活動をしている方

（4） 参加者の総数 68人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	1人	
韓国	人	タイ	人	ポーランド1人、チュニジア1人、イスラエル1人、イギリス1人
ブラジル	5人	ペルー	人	
ベトナム	1人	フィリピン	1人	
ネパール	1人	日本	55人	

（5） 開催時間数（回数） 29時間20分

（6） 取組の具体的内容

協議会全4回

回数	開講日時	時間数	場所	出席委員等氏名	協議のテーマ	内容
1	平成26年6月6日 15:00～17:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、長田治義、松下直樹、川端一博、西川寛之、藤田美佳、鈴木淑恵、堀 永乃	事業目標について	目標の共有
2	平成26年10月3日 15:00～17:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、長田治義、松下直樹、西川寛之、藤田美佳、鈴木淑恵、堀 永乃	成果物について	ヒアリング調査結果より、学習意欲と動機について
3	平成26年12月15日 10:30～12:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、川端一博、松下直樹、長田治義、西川寛之、藤田美佳、鈴木淑恵、堀 永乃	成果物について	事業の進捗状況と評価・目標設定
4	平成27年2月6日 14:00～16:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、川端一博、藤田美佳、鈴木淑恵、堀 永乃	事業評価	人材育成としての日本語教育に関する事業評価

ヒアリング調査とポートフォリオの作成

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1.2	平成26年6月7日 16:30～18:00	3時間	グローバル人財サポート浜松研修室	2人	ブラジル（1人）、フィリピン（1人）	ヒアリングとポートフォリオ作成	高い日本語能力を有する在住外国人がどのような日本語教育歴・学習歴をもっているのか、彼らのライフストーリーからポートフォリオを作成し、どの時点でどのような教育が必要なのかを調査分析していく	西川寛之
3，4	平成26年10月3日 10:00～13:00	3時間	グローバル人財サポート浜松研修室	3人	ブラジル（1人）、フィリピン（1人）、インドネシア（1人）	ヒアリングとポートフォリオ作成	高い日本語能力を有する在住外国人がどのような日本語教育歴・学習歴をもっているのか、彼らのライフストーリーからポートフォリオを作成し、どの時点でどのような教育が必要なのかを調査分析していく	藤田美佳
5，6	平成26年9月17日 13:00～16:00	3時間	グローバル人財サポート浜松研修室	2人	ブラジル（1人）、モンゴル（1人）	ヒアリングとポートフォリオ作成	高い日本語能力を有する在住外国人がどのような日本語教育歴・学習歴をもっているのか、彼らのライフストーリーからポートフォリオを作成し、どの時点でどのような教育が必要なのかを調査分析していく	鈴木淑恵
7，8	平成26年10月14日 13:30～18:00	4.5時間	グローバル人財サポート浜松研修室	3人	ブラジル（3人）、イギリス（1人）	ヒアリングとポートフォリオ作成	高い日本語能力を有する在住外国人がどのような日本語教育歴・学習歴をもっているのか、彼らのライフストーリーからポートフォリオを作成し、どの時点でどのような教育が必要なのかを調査分析していく	堀　永乃

世界の国から浜松を見てみよう！（多文化コンシェルジュの活躍の場づくり）※多文化コンシェルジュが担当回のみ

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年7月5日 10:00～11:30	1.5時間	中部協働センター	15人	日本（15人）	モンゴル文化紹介	日本人向けの異文化理解講座にて、モンゴル文化の紹介とモンゴル文字を書く体験をする	飯野ホラン	杉山真之介
2	平成26年7月12日 10:00～11:30	1.5時間	中部協働センター	15人	日本（15人）	インドネシア文化紹介	日本人向けの異文化理解講座にて、インドネシア文化の紹介をする	エディスジュン	杉山真之介
3	平成26年11月8日 10:00～11:30	1.5時間	中部協働センター	15人	日本（15人）	ポーランド文化紹介	音楽のまち浜松とワルシャワの違いについて紹介する	田近ヨアンナ	杉山真之介
4	平成26年11月29日 10:00～11:30	1.5時間	中部協働センター	15人	日本（15人）	フィリピン文化紹介	フィリピン文化の紹介と、実際に街に出て、フィリピンレストランと雑貨店を巡り、エスニックビジネスを体験する。	寺田アリス	杉山真之介

浜松市立東部中学校（多文化コンシェルジュの活躍の場づくり）

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成26年11月28日 13:00～15:00	2時間	東部中学校	20人	日本（20人）	ブラジルの教育事情と私の夢	来日してから今までの半生を振り返り、日本語がわからずイジメにもあったが、諦めないで努力した結果、高校を卒業し、今夢を抱いていることを話し、中学生に「グローバルな人材」とは何かを考える機会を提供する。	浅田マリアナ

KTC中央高等学院（多文化コンシェルジュの活躍の場づくり）

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成27年3月9日 9:30～10:20	50分	KTC中央高等学院	20人	日本（20人）	諦めず頑張ることの意味	ブラジルから来日し、諦めないで努力した結果、市役所通訳などの仕事に就くまでに至った半生を話し、高校生たちをエンカレッジする	宮本ルーカス

（7）　参加者の募集方法

中部協働センターでの文化紹介講座については、中部協働センターの管轄地域による回覧板とHICE NEWSにて一般市民を公募。

（8）　特徴的な活動風景（2～3回分）

インドネシア文化紹介を通して、技能実習生の存在を日本人市民に伝えることもできた。
日本人が持つ外国人に対する偏見や先入観をなくしたいという思いから、白い画面に黒点をつけて、何を意味しているかを問うパフォーマンスもあった。

東部中学校の総合学習の時間にて、ブラジル文化と教育状況について紹介をした。
日本の経済発達や高等教育への進学者が多いことは教育の素晴らしさなのではないかと思ったということ、グローバルな人材はまず自分の地域に誇りを持って自分の意見をしっかり言えることだという問いかけに対して、中学生はとても興味深く参加していた。

「あきらめず頑張り続けることの大切さを学びました」「これだけ苦労してでも学校に進学しようとしたお話から中退してしまった自分が恥ずかしいと思った」など、高校生の感想にあるように、自身の半生を日本人の後輩に話すことによって、学生たちはこれからの進路について自分自身と振り返ることにつながっていた。

http://www.ktc-school.com/campus/hamamatsu/blog/20150311-160000.php

（9）　取組の目標の達成状況・成果

本取組を通して、モンゴルのゲルを建てたり馬頭琴に触れる「浜松で世界の自然を体験しよう～モンゴル」やワルシャワと浜松の音楽文化を知る「ショパンなひととき」といった2つの事業が発展して開催されることになったことは大きな成果である。また、中部協働センターや東部中学校での講師を務めるなど、協議会委員の協働により、多文化コンシェルジュの出口支援が具体的な協働事業へとつながった。また、コンシェルジュ講座受講者自身のポートフォリオ作成により、高度人材である彼らのライフステージでの日本語教育と今の時点でも自身が抱えていると感じる日本語能力上の課題が明らかとなった。多文化コンシェルジュを紹介するホームページも充実できた。

（10）　改善点について

多文化コンシェルジュの活躍の場を広げるための広報力とコンシェルジュを活かしたプログラムをより多く事業化していくことが求められる。コンシェルジュ受講者のポートフォリオの内容を個人情報の問題から公開できないのが残念である。2年の実践を通して、コンシェルジュ育成のためのノウハウはある程度確立することができたが、コンシェルジュになるまでに必要な日本語教育と人材育成のつながりとその仕組みづくりについては、引き続き来年度の課題となっている。

○取組4：多文化パワーを活かした社会づくりシンポジウム

（1） 体制整備に向けた取組の目標

外国人の多文化パワーを地域社会に活かしていくことが、持続可能な社会づくりのために重要な取組みであることを広く周知し、企業や行政、市民の参加者に理解を深めてもらう

（2） 取組内容

「人と文化の多様性を活かした持続可能な社会づくり」シンポジウムの開催。①多文化コンシェルジュのトークセッションに向けたプレゼンテーション最終指導、②本事業の取り組み内容と目標の共有に向けた会議、③シンポジウムの実施。

（3） 対象者　行政関係者、国際交流協会担当者、企業関係者、外国人支援者等

（4） 参加者の総数　60人

出身・国籍別内訳

中国	1人	インドネシア	1人	
韓国	人	タイ	人	ポーランド1人
ブラジル	3人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	1人	
ネパール	人	日本	53人	

（5） 開催時間数（回数）　6 時間　（全 1 回）

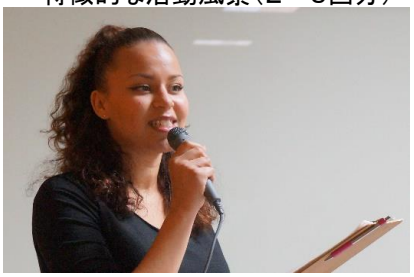
（6） 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年2月10日 10:00～12:00	1．5時間	ザザシティ浜松 中央館5F ギャラリー1	7	ブラジル（3人）、ポーランド（1人）、フィリピン（1人）、中国（1人）、インドネシア（1人）	プレゼンテーション	トークセッションのための最終内容確認と発表スタイルに対する指導を行い、躍動感のあるプレゼンテーションを受講者が行えるようにする。	西川寛之 堀　永乃	杉山真之介、鈴木淑恵
	平成27年2月10日 12:00～13:00	1時間	ザザシティ浜松 中央館5F ギャラリー1	15	ブラジル（3人）、ポーランド（1人）、フィリピン（1人）、中国（1人）、インドネシア（1人）、日本（8人）	会議	持続可能な社会のために外国人「も」活躍できる社会づくりのために、それぞれの機関や人がどのようにしていくべきなのか、本シンポジウムで何をゴールにしていくのかを全員で協議し、目標を共有する。	川北秀人 西原鈴子	杉山真之介、鈴木淑恵
	平成27年2月10日 13:10～14:10	1時間	ザザシティ浜松 中央館5F ギャラリー1	53	ブラジル（4人）、ポーランド（1人）、フィリピン（1人）、中国（1人）、インドネシア（1人）、日本（45人）	基調講演	持続可能な地域づくりには市民協働が欠かせないこと、これからの10年後、20年後を見据えて、外国人「も」協働のパートナーであることを考えていく。	川北秀人	杉山真之介、鈴木淑恵
	平成27年2月10日 14:10～15:30	80分	ザザシティ浜松 中央館5F ギャラリー1	53	ブラジル（4人）、ポーランド（1人）、フィリピン（1人）、中国（1人）、インドネシア（1人）、日本（45人）	トークセッション	多文化コンシェルジュによるトークセッション。来日後の異文化体験や外国人から見た浜松の魅力、この人がいたから今の自分があるなど様々なエピソードを語り合い、自分に何ができるのかを発表する。	宮本ルーカス、金城アイコ、田近ヨアンナ、寺田アリス、花嶋玲恵	杉山真之介、鈴木淑恵
	平成27年2月10日 15:30～16:30	70分	ザザシティ浜松 中央館5F ギャラリー1	53	ブラジル（4人）、ポーランド（1人）、フィリピン（1人）、中国（1人）、インドネシア（1人）、日本（45人）	パネルディスカッション	持続可能な社会の構築のために、企業や行政がどのような連携体制を取り、在住外国人のもつパワーを活かしていくのか、また、その効果について、事例発表をもとに、それぞれの立場から意見交換を行う。	川北秀人、西原鈴子、匂坂幸治、佐野憲、石塚良明	杉山真之介、鈴木淑恵
	平成27年2月10日 12:00～16:30	4．5時間	ザザシティ浜松 中央館5F ギャラリー1	53	ブラジル（4人）、ポーランド（1人）、フィリピン（1人）、中国（1人）、インドネシア（1人）、日本（45人）	ポスター発表	取り組み1～3までの活動内容についてポスター掲示で発表する	堀　永乃	

（7）　参加者の募集方法

SNS、ホームページ、チラシ配布、日本語教育関係者・し
国際交流協会・市民活動センター等へのチラシ送付、メー
ル告知。静岡県国際交流協会と浜松国際交流協会の
ホームページ上での告知を行う。

（8）　特徴的な活動風景（2～3回分）



（9）　取組の目標の達成状況・成果

これまでこのようなシンポジウムでは、多文化共生や日本語教育支援者というカテゴリーの参加者が多いが、今回のシンポジウムでは浜松市内はもとより県内外から行政職員、大学教員、市民協働センター担当者、企業からの参加者が目立った。これは、在住外国人との協働に対して、関心のある人が一定数いることを表す結果となり、在住外国人の社会参画にむけた体制整備が多様な人や機関と行える可能性の手応えを感じた。川北氏のお話は10年後、20年後の人口変動から市の財政状況までを分析しているもので、時代の変化と世界の競争力のなかで地域が生き残るための術として、在住外国人の活躍を効果的に行うことを提案された大変興味深いもので、参加者からの評価も高かった。また、トークセッションはまるでテレビ番組のようなテンポの良さで進行し、参加者からの評価は最も高かった。これは取組2の活動が十分に活かされたと考えている。また、本シンポジウムの特徴でもあるように、司会進行から内容の組み立て全てが外国人の方々によって行われたことも、取組1と2、そして3の集大成であることを表している。パネルディスカッションでも、企業の取り組みを伝えることができ、シンポジウム後に連携の申し出があるなど、波及効果があった。

（10）　改善点について

平日開催であったため、一般市民の参加が十分に得られなかったことが残念である。業務で参加することのできる人たちにはよかったが、この時期はどこでも同様のシンポジウムや講演が相次ぐため、広く市民の参加を促すには日程の検討が必要である。地域づくりとしての日本語教育に対する関心をもっと日本語教育に携わるボランティアや専門家に持ってもらえるような意識啓発も重要である。

6. 事業に対する評価について

（1） 事業の目的

外国人の多文化パワーを地域に活かすべく、高い日本語コミュニケーション能力をもつ外国人多文化コンシェルジュを育成し、地域の多文化共生社会づくりに寄与する人財としていく。

（2） 事業目的の達成状況

本事業を多様な機関と協働して行うよう努めたことにより、企業や市内の協働センターや学校、NPOなどの市民団体、大学等との連携体制が整備され、外国人「も」活躍できる場づくりが可能となった。このことにより、地域でより魅力的な事業やプロジェクトが生まれたり、市民が多文化共生や日本語教育について理解を深める機会に繋げることもできた。

本事業の目的としていた多文化コンシェルジュの人材育成ノウハウが確立できたと同時に、高い日本語コミュニケーション能力を持つ外国人多文化コンシェルジュを育成することができた。また、外国人多文化コンシェルジュという役割を持つ外国人財の存在を発信することで、新たなつながりを生むことができた。

（3） 地域における事業の効果，成果

高度な日本語能力を有する外国人が「多文化コンシェルジュ」として地域貢献できる人材になるまでのプロセスは確立できた。また、事業自体を多様な機関と協働して行った結果、企業、市内の協働センターや学校、NPOなどの市民団体との連携も生まれ、多文化コンシェルジュの活躍する場を提供することができるよう、出口支援の体制を構築できたことから、多文化コンシェルジュの今後の活躍が期待できる。それは、多様な機関が多文化コンシェルジュと協働することにより、よりよい事業が生まれたり、結果として顧客に理解を深められたりしたという効果があったことから明らかである。このことは、まさに地域日本語教育を地域を構成しているあらゆる機関や人とで、協働の域を超えた「総働」で行った成果である。また、これにより他地域でも汎用できるプログラム案は提示することができたと考えている。

（4） 改善点，今後の課題について

ⅰ 現状

多文化コンシェルジュは、日本人向けに自国文化を紹介したり、理解を深める活動に参与することはできている。しかし、外国人向けに自らの活動を伝えたり、次世代につなげることまでは至っていない。まして、日本文化や習慣を伝える人材としての活動は、個人レベルの範疇のなかだけで、能力があるものの未だ十分に行えてはいない。

ⅱ 今後の課題

在住外国人を社会貢献に資する高度人材へと育成するための日本語教育のスキームの確立。
多文化コンシェルジュの活躍の場を今後も広げていくこと。
多様な機関や人との接点はできたものの、外国人コミュニティへの事業の周知と理解が不十分である。
多文化コンシェルジュが外国人コミュニティに対し助言や指導をすることができるまでのコースデザイン。

ⅲ 今後の活動予定

引き続き、文化紹介講座や異文化理解講座など日本人向けの講座にて講師を務め、活動の領域を広げていく。
外国人コミュニティに対して、積極的な活動ができるよう、同国出身者向けの講座の開発を行う。
多文化コンシェルジュの育成スキームの確立を目指し、過去2年間の取り組みを振り返りまとめていく。

（5） その他参考資料

〇【報告書】多様な人財を活用した地域社会の構築に向けた多文化コンシェルジュ育成事業における地域的効果と課題について（アンケート・チラシ・受講者ポートフォリオを含む）